

## ク린テートFXUVの効果確認試験

JAびえい

佐佐木 正勝



慣行区①(7月3日)



慣行区②(7月3日)



慣行区③(8月5日)



試験区①(7月3日)



試験区②(7月3日)



試験区③(8月5日)

## 試験目的

ク린テートFXUVの効果確認試験

試験作物  
及び品種

トマト(ももたろうJ)

試験資材  
及び数量(規格)天井:ク린テートFXUV(0.1mm×960(480+480)cm×69m) 1枚  
腰:グローマスター(0.1mm×100cm×70m) 2枚

## 慣行資材

コーティング5+1

## 栽培方法

定植日	収穫日
慣行区:4月9日 試験区:5月19日	慣行区:6月上旬～ 試験区:7月中旬～

【栽植密度】  
畝幅:90cm  
株間:45cm

## 資材使用期間

2月15日～

## 試験区面積

435㎡

## 試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)**  
問題なかった。慣行と差はない。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響**
  - ・6月に曇天が続き、灰色カビ病が発生したが、慣行と差はなかった。
  - ・例年よりも果実の軟化が見られたが、慣行区も同等に見られており、UVカットが起因しているとは考え難い。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について**  
【優位点】:害虫の発生数量が減少した。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について**  
一般のPOと大差がない。
- (5)促成・抑制効果について**  
問題なし。
- (6)保温効果について**  
問題なし。2月に展張し、ハウス内の雪融けの進み具合、春先のハウス内温度に差はなかった。
- (7)雑草・病害虫の発生について**
  - ・設置したホリバーの害虫の付着数量が、格段に試験区の方が少なかった(慣行区の1割程度の量)。
  - ・ハウスの天井部、妻面、側、裾に全面被覆したことが、より効果的だと考えられる。

## モニター感想

今回、紫外線カットフィルム「ク린テートFXUV」、「グローマスター」をハウスに全面被覆した。予想以上に効果は大きく、害虫の量が抑えられたため、次年度以降からUVカットフィルムを使用したい。受粉作業には、マルハナバチを使用していなく、ブローワーをしているため問題ない。トマトの軟化の原因は暑さもあると思うが判然とせず、来季以降から注視していきたい。

## JA担当者の感想(生産資材課 三木係長)

今回の試験ではハウス全面に紫外線カットフィルムを展張した結果、害虫の減少効果が確認できた。一般POと比較して価格は若干高いが、収量の増加、防除回数の減少など所得の向上が実現できるため、紫外線カットフィルムの使用を進めていきたい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 ク린テート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他